

平成 26 年度 前期 学校評価アンケート結果

学校評価後期の結果は、平成 25 年度後期との比較とともに、低学年と高学年に分けて、児童・保護者・学年担任の比較もしてみました。

平成26年度 前期 学校評価 集計結果													
						学校全体 児童集計				平成25年度 後期			
P そう思う L ややそう思う O 少し思わない K あまり思わない						P	L	O	K	P	L	O	K
1	学校生活を楽しんでいる。					67%	27%	5%	2%	65%	29%	5%	1%
2	いっしょうけんめい授業（勉強）をしている。					59%	34%	6%	1%	56%	37%	6%	1%
3	友だちや家族を大切にしている。					76%	22%	2%	0%	74%	23%	2%	0%
4	自分から進んであいさつをしている。					63%	31%	5%	2%	55%	36%	8%	1%
5	自分から進んで、家で宿題や勉強をしている。					58%	27%	11%	4%	52%	33%	12%	2%
6	自分から進んで、読書をしている。					57%	27%	10%	6%	41%	31%	20%	7%
7	先生や友だちの話をしっかり聞いている。					55%	38%	6%	0%	55%	36%	8%	1%
8	自分の思いや考えを進んで発表している。					45%	34%	15%	5%	37%	39%	18%	6%
9	学校や学級のきまりや約束を守っている。					62%	33%	4%	1%	57%	36%	7%	1%
10	早寝・早起きをして、朝ごはんをしっかりと食べている。					56%	31%	9%	4%	47%	35%	12%	6%
						学校全体保護者集計				平成25年度 後期			
P そう思う L ややそう思う O 少し思わない K あまり思わない						P	L	O	K	P	L	O	K
1	子どもたちは、学校生活を楽しんでいる。					56%	42%	2%	0%	54%	44%	2%	0%
2	子どもたちは、基礎・基本（読む・書く・計算する・考える）の学力がついている。					23%	68%	9%	1%	23%	65%	12%	1%
3	子どもたちは、思いやりのあるやさしい心が育っている。					28%	63%	8%	0%	27%	67%	6%	0%
4	子どもたちは、気持ちのよいあいさつができています。					28%	54%	18%	1%	25%	60%	14%	1%
5	子どもたちは、家庭学習の習慣が身についている。					22%	60%	15%	2%	26%	55%	18%	2%
6	子どもたちは、読書する習慣が身についている。					19%	41%	35%	6%	20%	40%	34%	6%
7	学校は、いじめのない学校・学年・学級づくりに努力している。					24%	67%	8%	1%	23%	68%	8%	1%
8	学校は、相談しやすく親身になって対応している。					28%	62%	9%	1%	28%	65%	7%	0%
9	学校・学年・学級により、下鳥羽小サイトなどから、学校や子どもの様子がわかる。					32%	61%	7%	0%	29%	62%	8%	0%
10	学校行事やPTA活動・学校運営協議会の活動に参加している。					21%	47%	23%	8%	19%	47%	25%	9%
						教職員集計				平成25年度 後期			
P そう思う L ややそう思う O 少し思わない K あまり思わない						P	L	O	K	P	L	O	K
1	「しっかり話を聞く子」に育っている。					10%	71%	19%	0%	23%	68%	9%	0%
2	「はっきりと自分の考えを話す子」に育っている。					0%	62%	38%	0%	9%	68%	23%	0%
3	「友だちを大切にする子」に育っている。					10%	76%	14%	0%	18%	73%	9%	0%
4	自分から進んで挨拶できる子どもに育っている。					14%	67%	19%	0%	32%	55%	14%	0%
5	自分から進んで読書できる子どもに育っている。					0%	58%	42%	0%	23%	55%	23%	0%
6	発問を明確にし、子どもの思考の場・時間を保障する授業を意識して取り組んでいる。					11%	74%	16%	0%	19%	76%	5%	0%
7	一人一人の子どもが大切にされ、個に応じた取組を意識して取り組んでいる。					20%	65%	15%	0%	29%	57%	14%	0%
8	家庭学習の習慣づけをしたり、質を高めたりする課題を意識して宿題を出している。					17%	78%	6%	0%	29%	67%	5%	0%
9	学年・学級によりや家庭訪問、下鳥羽小学校学年サイト等によって、家庭・保護者との連携を深めている。					30%	70%	0%	0%	19%	71%	10%	0%
10	PTAや地域・学校運営協議会の活動に参加・協力している。					10%	55%	35%	0%	18%	55%	18%	9%
前期 学校評価 低学年高学年比較集計結果（抜粋）													
						低学年 児童集計				高学年 児童集計			
P そう思う L ややそう思う O 少し思わない K あまり思わない						P	L	O	K	P	L	O	K
6	自分から進んで、読書をしている。					74%	17%	5%	4%	41%	37%	15%	7%
8	自分の思いや考えを進んで発表している。					61%	26%	9%	4%	31%	42%	20%	7%
						低学年教職員集計				高学年教職員集計			
P そう思う L ややそう思う O 少し思わない K あまり思わない						P	L	O	K	P	L	O	K
1	「しっかり話を聞く子」に育っている。					13%	38%	50%	0%	13%	88%	0%	0%
3	「友だちを大切にする子」に育っている。					13%	63%	25%	0%	0%	88%	13%	0%
4	自分から進んで挨拶できる子どもに育っている。					13%	63%	25%	0%	13%	75%	13%	0%
6	発問を明確にし、子どもの思考の場・時間を保障する授業を意識して取り組んでいる。					0%	75%	25%	0%	25%	63%	13%	0%
7	一人一人の子どもが大切にされ、個に応じた取組を意識して取り組んでいる。					13%	50%	38%	0%	13%	88%	0%	0%
8	家庭学習の習慣づけをしたり、質を高めたりする課題を意識して宿題を出している。					13%	75%	13%	0%	13%	88%	0%	0%

## ①平成 25 年度後期との比較

児童は、『6 読書』以外は大きな変化はありません。児童たちは平成 25 年度後期に比べて、自ら進んで読書するようになっていきます。

保護者は大きな変化はありません。ほぼ同じ傾向です。

教職員は、『2 話す子』『5 読書』『9 連携』以外は大きな変化はありません。児童たちに『話す子』が減っているように感じています。授業では研究を進め発問を工夫していますが、『話す子』が固定しているようです。発表が多くの子どもたちが発表できるよう、発問の工夫等授業改善をさらに進めたいと思います。

また、児童の意識とは違い、『読書』は取組が弱まっているように感じています。『読書』は本校のスローガン「あいさつ・読書・家庭学習」の一つです。さらに取組を進めたいと思います。

また、『連携』の取組が進んでいると思っています。教職員は、家庭・保護者との連携がより進んでいるように思っています。

## ②傾向

児童は、友だち関係や家族関係は引き続きとてもよい方向にあります。また、多くの子どもたちは、学校生活を楽しく過ごし、しっかりと話を聞いて授業を受けていると考えられます。きまりや約束も守れています。

反面、家庭学習・発表・読書など自分の意志をしっかり持って進んで取り組むことを苦手としている児童がいます。また、保護者の結果からも、家庭学習・読書・あいさつが進んでいない状況にあります。その中でも、『あいさつ』が不十分だとしています。この点に関して、学校と家庭が協力して子どもたちを育てていく必要があります。

また、保護者・教職員とも PTA 活動などの参加が弱い状況にあります。ともに、意識して、参加していくようにしていくことが大切になっています。

教職員は、「読書の習慣」が不十分だと感じています。これは、三者とも感じています。「読書」の充実を目指し、学校と家庭が協力して進んで読書できる子どもを育てていきたいと思っています。また、発表が十分に進んでいないので、自分の考えを話す子が増えるように、引き続き子どもたちを育てていきたいと思っています。

## ③低学年と高学年との比較

前頁に、顕著な差があった項目のみ載せています。

児童は、『6 読書』『8 発表』は低学年の方がしっかりできていると感じています。この結果は前回と同じです。しかし、『6 読書』の差は前回と同じなのに対し、『8 発表』の差は広がっています。低学年が発表する児童が増えたのに、高学年は前回と同じです。

保護者は、低学年と高学年に大きな差はありません。傾向として『4 あいさつ』以外は低学年の保護者のほうが、プラス評価しています。

教職員は、『1 話を聞く』『3 友だち』『4 あいさつ』『6 授業』『7 個に応じた取組』『8 家庭学習習慣づけ』は、高学年担任がよりできていると感じています。

前回にもお知らせしましたが、これは、低学年からの各担任の積み重ね育てていった結果です。低学年の時にはできていなくても、低学年担任は、その学年の時に結果が出なくても地道に子どもたちを育てています。そして、次の学年担任へと引き継ぎます。引き継がれた担任はさらに伸びていくよう子どもたちを育てていきます。このように、低学年担任の地道な取組があったからこそ今の高学年が育っています。

まだまだ不十分な点がありますが、これからも子どもたちがより伸びていくように取り組んでいきます。今後ともよろしくお願いします。